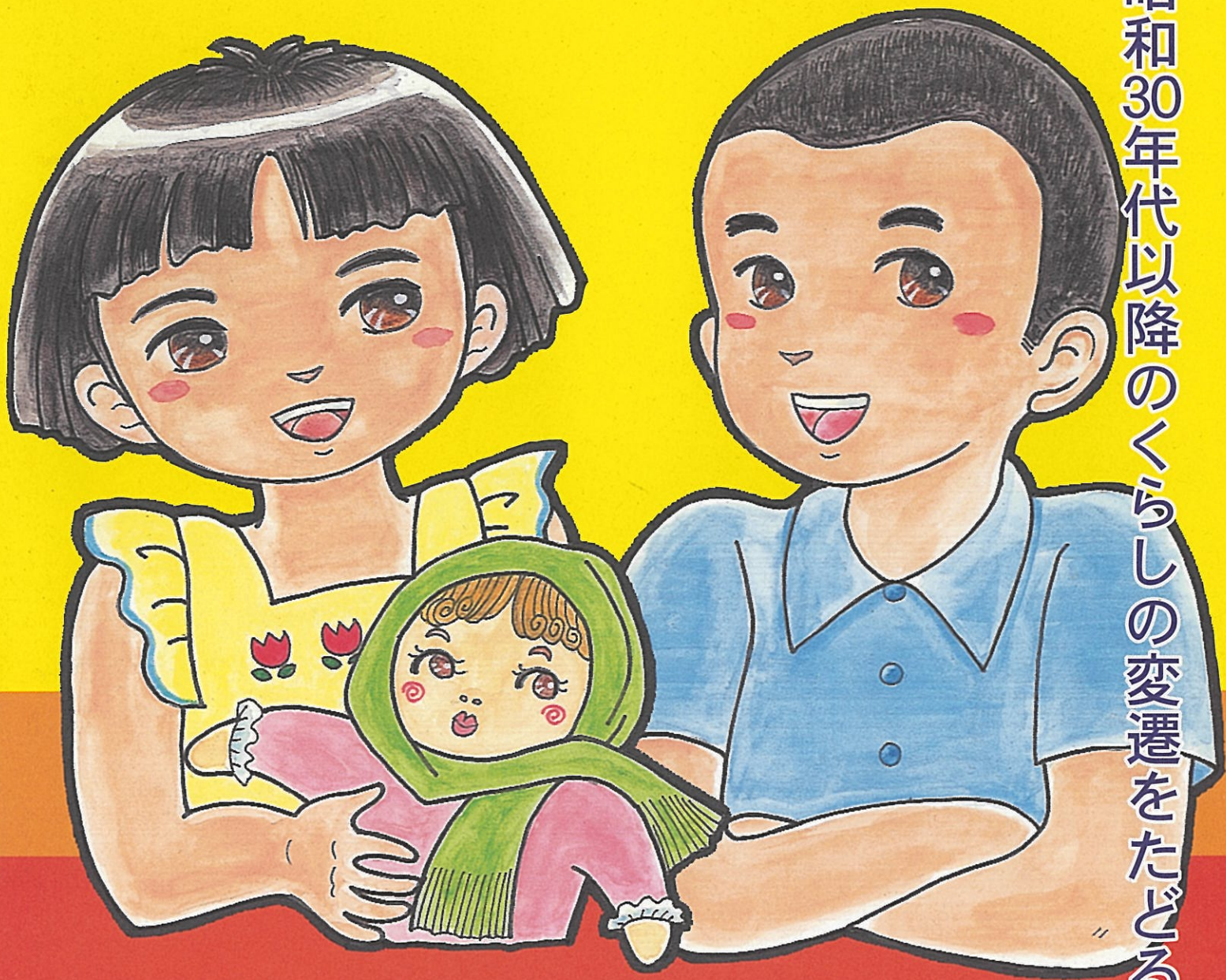


わが家にテレビがやってきた



昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる

2006

青森県立郷土館特別展図録

わが家にテレビがやってきた

昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる



ごあいさつ

近年、昭和30年代を取り上げた書籍を書店で見かけることが多くなりました。また、夕日に映える建設途中の東京タワーが印象的な映画も話題になりました。

昭和31年度の経済白書には「もはや戦後ではない」というキャッチフレーズが使われました。これは第二次世界大戦後の経済復興が完了したことを意味しました。そして、白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫の、いわゆる「三種の神器」といわれた家庭用電気製品の普及をはじめとする消費ブームがやってきました。オート三輪車、テレビのヒーロー、駄菓子屋、フラフープ等々は、「団塊の世代」にとってはとりわけ懐かしく思われることでしょう。

このように高度経済成長時代は、人々の暮らしが便利で豊かになっていった一方で、都市問題や公害問題、消費者問題などが現れはじめた時期でもありました。しかし、この時代に対してなにかしら郷愁のようなものを感じるのは、多くの国民が明日に希望を持ち、輝いていた時代であったからでしょう。

本展では、今年でちょうど還暦を迎えたタロウ（昭和21年生まれ）と、2つ違いの妹ハナコというふたりのキャラクターといっしょにタイムトリップすることにしました。そして、現在の生活様式の原点となった当時の暮らしを様々な視点から振り返ることで、現在および今後の私たちの生活を考えるよい機会となれば、意義あることと思います。

終わりに、貴重な資料を出品してくださった所蔵者の方々をはじめ、協力していただいた関係各位に対し、心からお礼を申し上げます。

平成18年9月

総合博物館
青森県立郷土館
館長 成田 英男

目次

ごあいさつ

目次と凡例

総説	3～5
1 ようこそ昭和30年代へ (キャラクターのプロフィール)	6
2 マイカー時代の到来	7
3 幼年期 - 経済復興の進展 -	8
4 児童期 (1) わが家にテレビがやってきた	9～12
(2) 子どもたちの世界	13～18
5 レジャーの時代	19～20
6 マッチラベルに見る昭和30年代の青森	21～22
7 青年期 - 3C時代の到来 -	23
8 なつかしい写真	24～25
関係年表	26～27
参考文献一覧	28
協力者一覧	29

オリジナル付録	1. 昭和30年代すごろく
	2. きせかえ
	3. むりえ

〈凡例〉

1. 本書は青森県立郷土館を会場として、平成18年9月15日(金)～11月5日(日)まで開催される特別展「わが家にテレビがやってきた-昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる-」の図録である。
2. 本書に掲載された写真は、出品資料のすべてではない。したがって、資料の図版番号は、出品資料番号とは一致せず、陳列・掲載の順序も必ずしも番号順ではない。
3. 図版キャプション中の寸法の単位はセンチメートル、(W)、(D)、(H)はそれぞれ幅、奥行、高さを表す。
4. 本書の編集は、青森県立郷土館主任学芸主査竹村俊哉と学芸主査太田原慶子が主として担当した。
5. 本展の関連事業として下記の記念講演会を開催した。
9月17日(日) 13:30～15:00
青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所
主任研究員 立木 祥一郎 氏
「テレビが放った昭和というイメージ」
10月8日(日) 13:30～15:00
青森県立三沢航空科学館館長 大柳 繁造 氏
「マイカー時代とくらしの変化」

高度経済成長時代の青森県

青森県立郷土館

竹村俊哉

1. はじめに

昭和20年（1945）8月15日正午、昭和天皇みずからの声によるラジオ録音放送（玉音放送）が流れ、国民はわが国が第二次世界大戦を無条件降伏したことを知った。戦後の復興はGHQ（連合国軍総司令部）の占領下ではじめられ、青森市・弘前市・八戸市にも占領軍が進駐してきた。そして、GHQによる経済民主化政策や、昭和25年に起こった朝鮮戦争による特需（アメリカ軍を中心とする国連軍からの物資やサービスへの特別需要）によって、日本は戦後10年間で急速な経済復興を遂げたのである。「もはや戦後ではない」というキャッチフレーズが昭和31年度の『経済白書』に使われ、日本経済はこれ以降、景気循環しながら成長を続けていく。ここでは高度経済成長期の消費動向や青森県をとりまく諸情勢について概観することで、昭和30年代の人々のくらしを理解する一助としたい。

2. 高度経済成長期のくらし

昭和30年から昭和48年にかけての石油危機までの経済発展のことを高度経済成長と呼ぶ。この間、日本の経済成長率は年平均実質約10%という欧米先進国の2倍のテンポで成長し、昭和43年にはGNP（国民総生産）が自由主義社会ではアメリカについて2位となった。

昭和34年度の『国民生活白書』には「消費革命」ということばが使われた。国民の消費生活が文化的、高級的なものへ変化したことを表したもので、耐久消費財を中心とする消費ブームがおこった。1960年代前半は、白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫がいわゆる「3種の神器」として人気を博し、1960年代後半のいざなぎ景気にはカラーテレビ・自動車（カー）・クーラーが登場して、その英語の頭文字をとって「3C時代」とよばれた。以下、この時期を弘前市の商況とあわせながら概観する。弘前市は青森県津軽地方の中核都市で、当時から周辺の町村を商圏としてにぎわった。

（1）神武景気（昭和30年～32年：高度経済成長のはじまりを告げる好景気）

昭和31年はりんごが豊作であったが安値となり、また昭和29～30年のりんごの不作による不況が続いたため、農村購買力の増加はみられず、農村地域を顧客とする弘前地方は神武景気の恩恵は受けなかった。その後、昭和32後半～33年には神武景気の反動としてなべ底不況が起こった。

（2）岩戸景気（昭和33年末～36年：昭和35年には第2次池田勇人内閣が「国民所得倍增計画」を発表。今後10年間でGNPを2倍にすることを目標に定めた）

昭和34年に弘前市から『弘前市における商工業の現状と将来』という調査報告書が出されている。そのなかで、同業種間の商店の競争は激しいが、デパートに対してはほとんど競争相手としては意識していないという興味深い分析を示している。すなわち、この周辺の人たちはデパートに来ることをひとつの楽しみと考えており、品物を見てほしいの値段の見当をつけては小売店へと足を運んでいると分析している。しかしながら、スーパーマーケットの進出には少なからず影響を受けており、競争相手としての意識を持っていた。

（3）オリンピック景気（昭和37年末～39年：昭和39年の東京オリンピック開催に向けて東海道新幹線や高速道路、競技施設などの建設が盛んになり、また関連する諸産業にも波及効果が見られた。）

弘前市内の商店街では某メーカーの「オリンピックに使われている時計」という宣伝看板を掲げた時計店、五輪ちょうちんをさげた靴店、五輪マーク入りのシャープペンシルやペンを売り出す万年筆店、東京五輪音頭のオルゴールを売る楽器店、五輪マーク入りのハンカチや風呂敷、ネクタイピンを売るアクセサリ店などでオリンピックムードを盛り上げた。昭和39年末～40年にはオリンピック景気の反動として40年不況が起こった。

（4）いざなぎ景気（昭和40～45年：海外への輸出が伸び、岩戸景気をしのぐ長期の好景気を経験した。）

昭和41～42年においては、米の豊作やりんごの好況により、商況も活発に推移した。しかし、43年は豊作によるりんご価格の低迷に直面し、44年には米価格の据え置きや実施を翌年に控えた減反問題等の影響により農村の購買意欲は抑えられた。

3. 高度成長時代の青森県

(1) 昭和の大合併

昭和30年代前半は、全国的に市町村合併が行われ、青森県においても合併によって黒石市（昭和29年）・五所川原市（昭和29年）・三本木市（昭和30年、翌年に十和田市と改称）、三沢市（昭和33年）、大湊田名部市（昭和34年、翌年にむつ市と改称、全国初のひらがな表記の市）の5市が誕生した。その後も合併が進んで昭和43年には8市、32町、27村の67市町村となった。

(2) 商工業の発展

昭和30年代には全国的にスーパーマーケットが現れる。これは販売経費の節減のためにセルフサービス方式を取り入れたもので、当時のわが国では画期的なものであった。弘前市には昭和33年に「主婦の店」が出店した。また、昭和34年には弘前市にあった「角はデパート」が県内で初めてパートタイマーを導入し、主に家庭の主婦を対象に採用した。このように現在私たちが買い物で見かける光景は、この時期に始まったと言えるであろう。

昭和39年に、八戸市は新産業都市に指定された。八戸市は金属関係の工場や火力発電所が操業する県内唯一の工業都市であり、これを機会に大規模な製紙工場などが誘致された。進出した工場のほとんどは中小規模クラスのものであったが、八戸市やその周辺地域に雇用の増加などの経済的効果をもたらした。

こうして、県内の商工業が発展する一方で、全国的な経済成長にともない関東や関西地方における建設労働の需要がおこり、本県からの出稼ぎ者も増えていく。こうしたなかで、昭和29年4月には全国初の集団就職列車が青森・上野間の東北本線で運行が開始された。これは、関東・関西方面に就職する中学校新卒者、いわゆる「金の卵」を運ぶための臨時列車で、昭和50年3月まで運行された。

(3) 開発の推進と転換

戦後、青森県には政府主導型の開発計画がいくつか持ち込まれた。昭和32年には、下北地方の砂鉄を原料として鉄鋼を生産する「むつ製鉄株式会社」が設立された。また、昭和39年には県内の甜菜（ビート）栽培の振興策にともない、六戸町に「フジ製糖株式会社」を誘致したが、いずれも失敗に終わった。

このような開発計画の行き詰まりのなかで、昭和46年には「むつ小川原開発計画」が発表されることになる。これは重化学工業中心の大規模工場地帯を構想したものであるが、石油危機以後の成長の鈍化によりその推進の見直しが図られ、以後この地域の開発は、国家石油備蓄基地の建設や核燃料サイクル施設の建設へと移行していった。

(4) 農業をとりまく変化

昭和36年に制定された農業基本法は経営規模の拡大による自立農家の育成を目指した。青森県でも農地の改良整備、機械化、農産物の冷蔵倉庫の充実などにより農業の発展が見られた。しかし、昭和30年代の終わりころから、農産物の生産過剰が現れ始め、リンゴの市場価格も下落し、昭和43～44年にはリンゴ生産者が大量のリンゴを山や川に投棄する、いわゆる「山川市場」ということばも生まれた。さらに、昭和45年からは米の生産調整（減反）が実施され、農家は厳しい状況に立たされることになった。

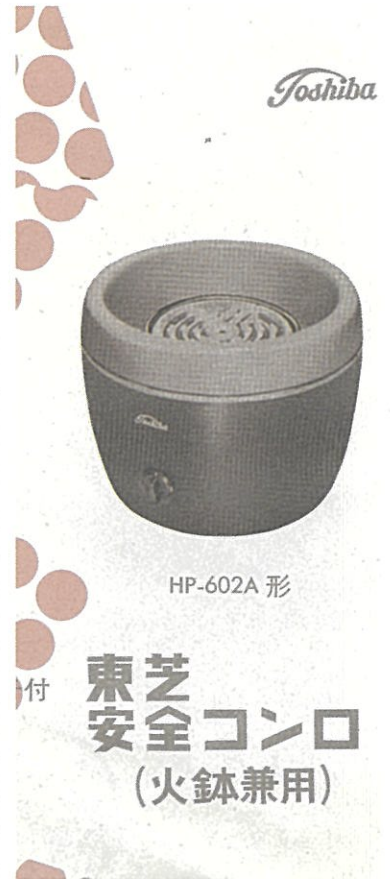
4. おわりに

昭和30年代の青森県の状況を見たとおりに、この時代はその地域の産業構造によって、全国的な景気変動とは若干の違いがみられたものの、消費生活という点では、テレビや新聞等のマスメディアの普及にともなって地域差は埋まっていった。、次の表からもわかるとおり、青森県においても三種の神器をはじめ、電気釜、電気アイロン、電気コンロ、電気あんか、電気こたつ、扇風機などの家庭用電気製品が普及していき、その恩恵に浴することになったのである。

東北7県における電気器具の普及率（昭和36年）

	全体	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	新潟
ラジオ	78.75	84.98	82.68	77.16	88.46	77.32	82.66	67.73
テレビ	45.60	46.75	35.93	49.91	49.45	42.38	32.30	57.58
アイロン	68.98	70.23	63.85	64.45	75.09	69.33	64.61	73.24
掃除機	3.92	4.40	2.38	6.26	5.13	2.79	2.14	4.54
ミシン	0.90	0.84	0.43	0.92	1.28	1.30	1.19	0.48
洗濯機	19.02	14.47	9.96	17.31	21.98	19.14	14.01	28.50
ポンプ	8.40	3.98	7.14	8.47	8.42	10.22	8.31	10.05
コンロ	8.78	10.06	9.96	13.81	9.89	10.97	6.29	5.31
電気釜	17.24	20.05	15.80	18.97	21.43	13.75	15.32	16.52
天火・魚焼フライパン	3.13	5.24	0.87	4.60	3.30	1.12	2.38	3.96
トースター	6.44	7.76	5.19	6.81	10.62	4.28	4.16	6.96
ミキサー	3.06	3.35	1.73	3.31	4.21	2.79	2.73	3.19
ポット	11.88	9.64	17.32	11.60	15.20	9.85	10.33	11.21
冷蔵庫	5.83	7.76	4.98	6.08	7.33	3.90	4.99	6.09
換気扇	0.83	1.68	0.43	1.47	0.73	0.74	3.56	0.77
タイムスイッチ	1.44	0.84	0.87	2.76	1.65	1.86	0.95	1.35
コタツ	11.93	7.55	10.17	12.52	13.37	11.15	12.11	13.91
アンカ	14.36	11.11	9.31	7.18	13.74	17.29	13.18	21.64
毛布・敷布・座布団	0.88	1.47	0.22	1.47	0.37	1.86	0.59	0.58
足温器	0.79	1.47	0.00	1.10	1.65	0.56	0.71	0.39
ストーブ	1.08	1.26	1.30	0.92	1.47	1.30	0.48	1.16
扇風機	8.94	6.08	6.06	9.76	11.54	7.25	6.18	12.58
ルームクーラー	0.05	0.00	0.00	0.00	0.37	0.00	0.00	0.00
所有しない	2.99	1.89	3.03	2.21	1.28	3.77	4.75	3.00

東北電力株式会社『東北7県の家庭用電気器具について』より作成



Toshiba

HP-602A 形

東芝安全コンロ
(火鉢兼用)



東芝
自動式 電気釜

1.8リットル600W RC-101型

ごはんが科学的に美味しく炊ける

Toshiba



MITSUBISHI
NB-2形600W

三菱(普及形)電気鍋

三菱電機株式会社

1 ようこそ昭和30年代へ

「みなさん、こんにちは。わたしはタロウと申します。青森生まれの青森育ちです。今年で還暦を迎えましたので、人生の区切りとして、わたしが小さかった時のなつかしい昭和30年代ころを振り返ってみようと思います。」



「妹のハナコです。兄とは2つ違いですので、いつもいっしょに遊んでいました。両親は新しもの好きで、近所に先駆けて家電製品を買ったものです。それでは、みなさんといっしょに昭和30年代の世界へタイムスリップしましょう。」

2 マイカー時代の到来



ダットサンブルーバード(38年式)
(オールドカー・オートバイコレクション展示館蔵)

初代ブルーバードは、1000ccと1200ccが発売され、販売価格は68～69万円であった。最高時速は105キロで、消費者の圧倒的な人気を集めた。



トヨタパブリカUP20(昭和43年式)
(オールドカー・オートバイコレクション展示館蔵)

パブリカは昭和36年にトヨタ自動車工業から38万9000円で発売された。

3 幼年期 — 経済復興の進展 —

昭和26年9月、日本と連合国48か国との間で対日講和条約が調印され、日本は主権を回復しました。その前年の6月に朝鮮戦争が勃発し、アメリカ軍からの物資・サービスの調達需要（特需）により、日本経済の復興が急速に進みました。



ラジオ(青森県立郷土館蔵)

「青森ではまだテレビ放送が始まっていないから、みんなラジオを楽しみにしているよ。おとうさんは、早く力道山のフロレスをみたいといつも言っているんだ。」



氷冷蔵庫(青森県立郷土館蔵)

電気冷蔵庫が現れる以前は、氷を冷蔵材とした。上部に氷を入れるスペースがあり、氷2貫目で1日冷やせるというものであった。



「お母は」の
真知子(まちこ)

「おかあさんは「君の名は」というラジオ番組に夢中になっているそうよ。」

- 昭和27年
 - 10月 初のテレビ中継実験放送で大相撲を実況放送
 - この年、電気冷蔵庫とマジックインキが登場、スクーター流行
- 昭和28年
 - 2月 NHK東京地区で1日約4時間のテレビ本放送開始
- 昭和29年
 - 7月 文化放送、深夜放送を開始
 - 8月 ラジオ受信契約1200万突破
 - この年、電気洗濯機急速に普及

4 児童期(昭和30~39年)

「どうとう、うちにも待ちに待ったテレビがやってきたんだ。箱からテレビが取り出されたときはうれしくてたまらなかったよ。近所の人や友達もうちにやってきて、みんな珍しそうに見ていたなあ。」



(1) わが家にテレビがやってきた

昭和20年代後半には東京地区においてテレビ放送が開始され、白黒テレビ・電気冷蔵庫・電気洗濯機などの家庭用電気製品が電気屋の店先に並びはじめました。昭和34年の皇太子ご成婚直前にはテレビの受信契約数が倍増し、青森県でもこの年にテレビ放送が始まりました。昭和30年後半に「神武景気」が始まると、耐久消費財の生産が本格化しました。テレビをはじめとする電化製品の登場により、国民の生活がこれまでにくらべて便利になり、またテレビから多くの娯楽を享受できるようになりました。



白黒テレビ(ナショナル、TF-37Y)
(昭和38年:増田公寧氏蔵)
(W)74(D)33(H)80

「そうね、いま、ミッチーフォームで日本中が盛り上がっているわ。電気釜と電気洗濯機もいっしょに買っちゃって、おかあさんがとっても喜んでくれたわ。」

- 昭和30年
8月 トランジスタ・ラジオ発売(東京通信工業/現ソニー)
- 昭和31年
2月 『週刊新潮』創刊
- 昭和32年
この年、コカコーラ上陸
- 昭和33年
8月 初のインスタントラーメン(日清のチキンラーメン)発売
- 昭和34年
2月 「カラーテレビ受像器」発売(東京芝浦電気/現東芝)
- 昭和35年
この年、ダッコちゃん発売
- 昭和36年
6月 パブリカ発売(トヨタ自動車)
- 昭和37年
4月 リポビタンD発売(大正製薬)
- 昭和38年
6月 本邦初、電気蚊取り器「フマキラーベープ」発売
- 昭和39年
1月 「かっぱえびせん」発売(カルビー)

美智子様の
マネをしてみた



【三種の神器①ーテレビ】

テレビ放送が始まったのは、昭和28年2月1日。当時の大卒初任給が1万円程度でテレビの値段はその11倍から24倍もしました。



4-(1)-1 白黒テレビ<ナショナル、T14-G7>
(昭和35年:増田公寧氏蔵)
(W)43 (D)44 (H)44.5



4-(1)-2 白黒テレビ<八欧電気、14-SB>
(昭和36年:増田公寧氏蔵)
(W)58 (D)43 (H)83
音声を画面中央で立体交差させることで音響効果を発揮する機能を備えており、「Xラインテレビ」と呼ばれた。

【三種の神器②ー電気冷蔵庫】



4-(1)-3 電気冷蔵庫<ナショナル、NR-100>
(昭和30年代:増田公寧氏蔵)
(W)50 (D)56 (H)93

【三種の神器③－電気洗濯機】



4-(1)-4 手回し洗濯機
(W)50(D)33(H)37
(青森県立郷土館蔵)
洗濯板から電気洗濯機への過渡
期にあらわれたもの。ボール型
の容器に衣類と洗剤を入れてハ
ンドルを回して洗った。



4-(1)-5 丸型電気洗濯機
(直径)45(高さ)58
(上村四郎氏蔵)
電気洗濯機は当初、「丸型攪拌(か
くはん)式洗濯機」であったが、
昭和28年に三洋電機が日本最
初の回転翼で水流を起こす「噴
流式洗濯機」を発売。



4-(1)-6 電気洗濯機
(W)52(D)42(H)90
(八戸市南郷歴史民俗資料館蔵)
右側についたハンドルを回すと
2本のローラーが回転し、洗濯
物をはさみこんで脱水した。昭
和35年には二槽式脱水乾燥洗
濯機が三洋電機と松下電器産業
から発売された。

【扇風機】



4-(1)-7 扇風機(明電舎、DU-351M)
(昭和30年代:増田公率氏蔵)
(W)35(D)26(H)57

【ジュースミキサー】



4-(1)-8 ジュースミキサー(日立、MJ1)
(昭和30年代:増田公率氏蔵)
(W)20(D)20(H)38

【電気アイロン】



4-(1)-9 電気アイロン
(昭和30年代:秋乃宮博物館蔵)
(W) 17 (D) 11 (H) 12

電気アイロンの出現は明治34、35年ころで明治末期より国産が開発された。戦後の家庭電化ブームにより、自動スチームアイロンが開発された。

【電気掃除機】



4-(1)-10 電気掃除機(東芝、VC-35A)
(昭和36~37年:増田公寧氏蔵)
(W) 16 (D) 48 (H) 24

【電気炊飯器】



4-(1)-11 電気炊飯器(東芝、ER-8)
(昭和30年代:増田公寧氏蔵)
(W) 34 (D) 28 (H) 27

電気釜は昭和30年に東芝が初めて発売したもので、スイッチを入れるとご飯が炊きあがる自動式炊飯器である。

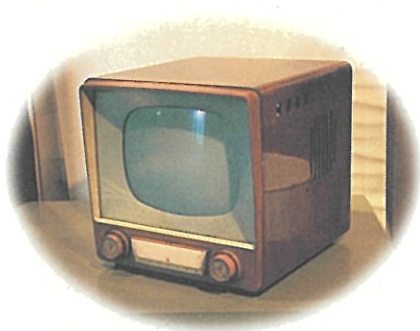
【電気スタンド】



4-(1)-12 電気スタンド(ナショナル、F1082)
(昭和33年:増田公寧氏蔵)
(W) 35.5 (D) 9 (H) 31

再現コーナー1 台所につづく四畳半

茶の間は卓袱台(ちゃぶだい)を囲んでの食堂であり、子どもたちの勉強部屋でもありました。また、テレビを置いた家族団らんの場であり、夜は卓袱台の脚をたたんで片づけると寝室となり、まさに多目的室でした。



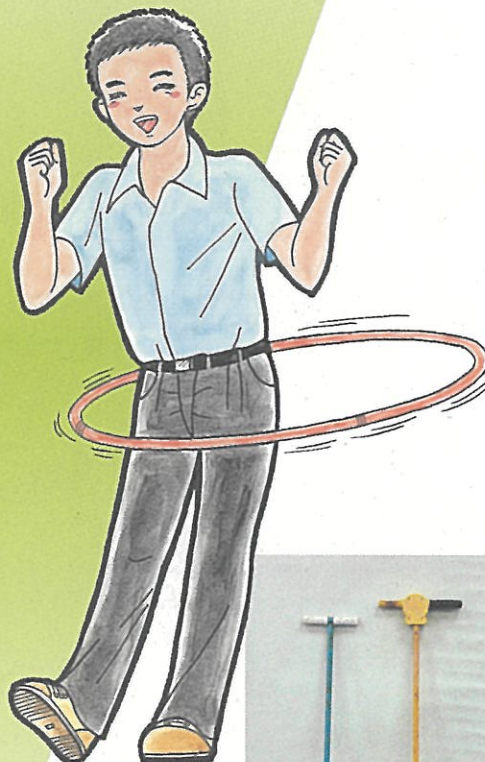
(2) 子どもたちの世界

少年少女雑誌やテレビは、子どもたちの世界に大きな影響を与えました。男の子はヒーローごっこ、女の子は着せかえ紙人形やぬりえに熱中しました。学校から帰った子どもたちはおこづかいを握って、近所の駄菓子屋に急いだものでした。



「ホッピング、フラフーフ、缶けり、めんこ……。学校から帰ると、近所の友だちと日が暮れるまで遊ぶんだよ。クルマもそんなに走っていないから、道路がぼくらの遊び場なんだ。」

「ぬりえ、おりがみ、紙の着せかえ人形はわたしたちの人気の的なの。この前の日曜日、デパートで欲しかった「ダッコちゃん」を買ってもらい、うれしくて毎日腕につけて近所の友達と遊んでいるの。」



再現コーナー2 路地裏の記憶

大通りから入った狭い路地裏は交通量も少なく、子どもたちの格好の遊び場でした。男の子はビー玉・メンコ・ベーゴマ、女の子はゴム跳に夢中でした。駄菓子屋の店先、紙芝居は路地裏の懐かしい風景です。しかし、昭和30年代後半からは車の普及にともない交通量が増えていくと、路地裏から子どものにぎやかな声が聞こえなくなり始めました。

本・雑誌

昭和30年代に隆盛を極めた貸本屋ではマンガ雑誌が人気を集めたほか、江戸川乱歩の読み物も多く読まれました。
(すべて秋乃宮博物館蔵)



4-(2)-1 赤胴鈴之助の本
(少年画報のふろく)



4-(2)-2 江戸川乱歩原作の本
(昭和30年)



4-(2)-3 少年キング



4-(2)-4 冒険王



4-(2)-5 少年サンデー



4-(2)-6 少年マガジン



4-(2)-7 少年画報



4-(2)-8 少女クラブ



4-(2)-9 少女



4-(2)-10 マーガレット



4-(2)-11 なかよし



4-(2)-12 学習雑誌(幼稚園)



4-(2)-13 学習雑誌(小学生)



4-(2)-14 学習雑誌の付録雑誌のふろくとしてはすごろくが最初であった。大正期には少年少女雑誌の正月号のふろくとして定着していった。その後、紙の組み立ておもちゃが多くみられ、戦後はマンガのキャラクターものが主流となっていった。



4-(2)-15 学習雑誌(小学生)

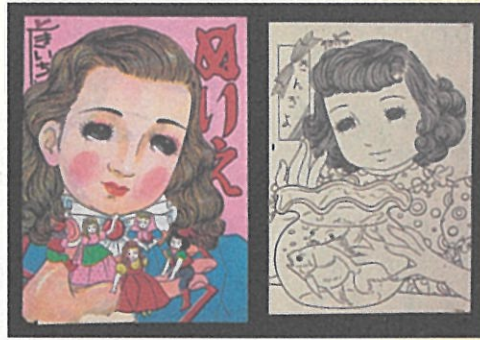


4-(2)-16 学習雑誌(中学生)

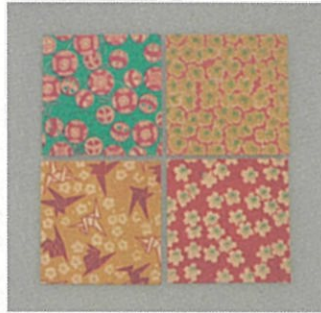
女の子の世界



4-(2)-17 ダッコちゃん(秋乃宮博物館蔵)
昭和35年に「木のぼりウインキー」という名で発売。若い女性がこの人形を腕にからませて歩くのでマスコミが「ダッコちゃん」と命名した。



4-(2)-18 ぬりえ(秋乃宮博物館蔵)



4-(2)-19 千代紙
(秋乃宮博物館蔵)



4-(2)-20 折り紙
(秋乃宮博物館蔵)



4-(2)-21 キャラクター人形(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-22 クマのおもちゃ(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-23 セルロイドの人形(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-24 キャラクター人形(安田勝寿氏蔵)

男子の世界



4-(2)-25 めんこ (秋乃宮博物館蔵)



4-(2)-26 鉄人28号のシール (秋乃宮博物館蔵)

昭和30年代後半には、大手製菓会社のおまけとして、シールやワッペンがブームとなった。テレビの普及とともに鉄腕アトム、鉄人28号、狼少年ケンなどのキャラクターに人気が集まった。



4-(2)-29 竹ひごグライダー (秋乃宮博物館蔵)

袋の中味は、胴体部分になる5ミリ角程度の角材、つばさの骨格となる竹ひごとそれに張る薄手の紙、プロペラなどである。竹ひごはろうそくの火であぶりながらU字に曲げていく。主翼や尾翼の付け具合が飛び方に影響した。



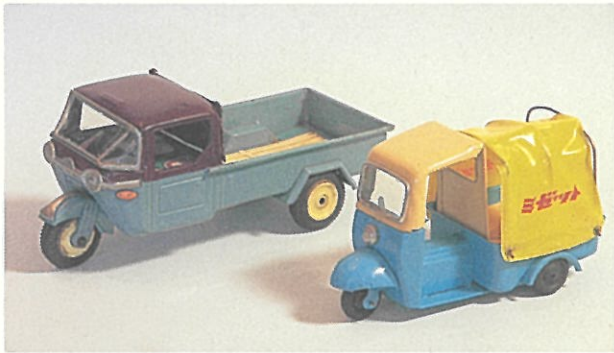
4-(2)-27 かるた (月光仮面・赤胴鈴之助)

(青森県立郷土館蔵)



4-(2)-28 行軍将棋 (秋乃宮博物館蔵)

軍人将棋ともいう。工兵、騎兵など軍人の階級が書かれた駒で遊ぶもの。



4-(2)-30 ブリキのおもちゃ(オート三輪)
(安田勝寿氏蔵)



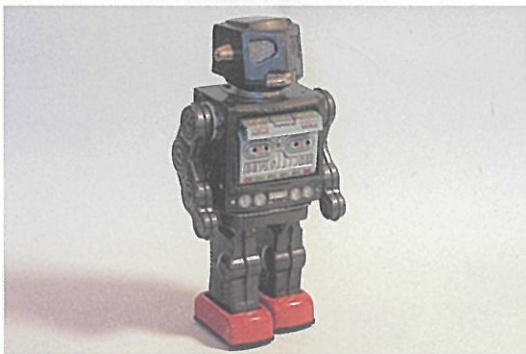
4-(2)-31 ブリキのおもちゃ(スクーター)
(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-32 ブリキのおもちゃ(スポーツカー)
(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-33 ブリキのおもちゃ(ボンネットバス)
(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-34 ブリキのおもちゃ(ロボット)
(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-35 ブリキのおもちゃ(宇宙船)
(安田勝寿氏蔵)



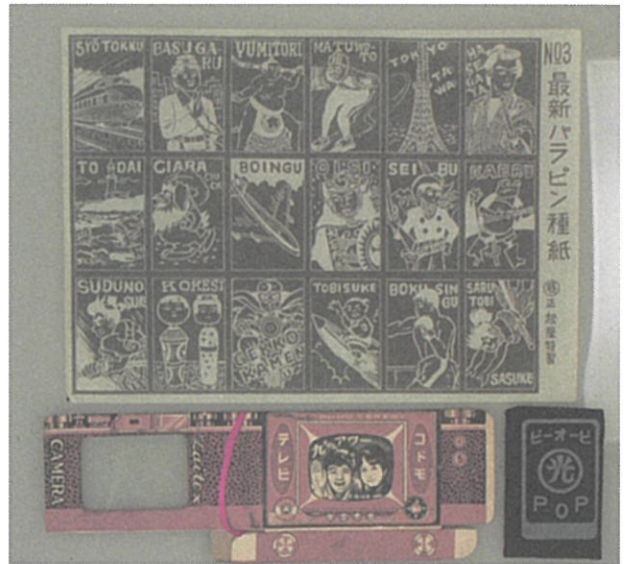
4-(2)-36 ブリキのおもちゃ(月光仮面、少年忍者部隊、まぼろし号)
(安田勝寿氏蔵)



4-(2)-37 プラモデル(マグマ大使)
(安田勝寿氏蔵)



4(2)-38 スカイピンポン(秋乃宮博物館蔵)



4(2)-39 日光写真(秋乃宮博物館蔵)

図案が描かれた種紙を印画紙に載せ、写真機の箱にセットして日光を当てると、図案の黒い部分が印画紙に陰となって、白く浮き出るしくみである。



4(2)-40 グリコのおまけ(秋乃宮博物館蔵)

グリコといえばおまけである。大正期後半に発売された栄養菓子グリコは絵カードをおまけとしていた。昭和に入りおまけ小箱が考案されオリジナルのおもちゃがつけられた。グリコは昭和17年に生産中止され、再開されたのは昭和22年であった。昭和20年代はセルロイド製のおまけが中心であったが、昭和30年代からはプラスチック製となった。昭和40年ごろから鉄人28号や遊星少年パパイなどテレビアニメのキャラクターが登場し、昭和42年からは男の子用・女の子用と分けて販売された。

5 レジャーの時代

休日の増加と労働時間の減少はドライブや家族旅行を中心としたレジャーブームを引き起こします。また、観光地ではカメラを手にした人たちの姿が多くみられ、カメラブームもやってきます。一方、それまでの娯楽の中心だった映画は昭和35年を最盛期として、その後はテレビにその座を譲ることになります。

【カメラ】(新渡戸明氏蔵)



5-1 リコーフレックス
(昭和25~31年:日本、理研科学工業)
(W) 8.5 (D) 10 (H) 12.9



5-2 マミヤフレックスC
(昭和32年:日本、マミヤ光機)
(W) 8.3 (D) 10.2 (H) 16.4



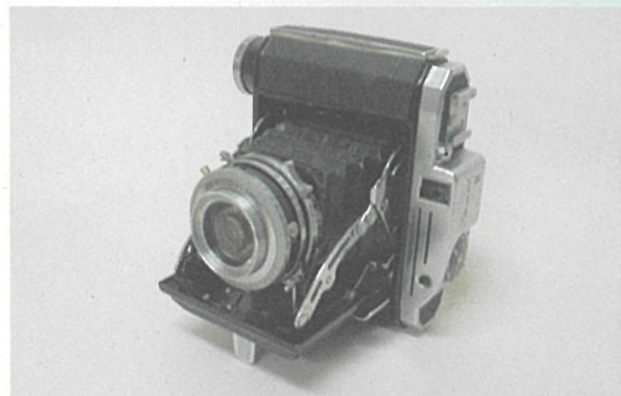
5-3 ライカMP型
(昭和31年:ドイツ、ライカ社)
(W) 138 (D) 74 (H) 77



5-4 ロボットスターII/50
(昭和29年:東ドイツ、ロボット電子写真工業)
(W) 11 (D) 5.5 (H) 10



5-5 オリンパス35-S
(昭和32年:日本、オリンパス光学工業)
(W) 13.7 (D) 6.8 (H) 8



5-6 パールIII L
(昭和32年:日本、小西六写真工業)
(W) 10.8 (D) 4.4 (H) 11.8

【さまざまな雑誌】

昭和31年、『週刊新潮』が日本初の出版社による週刊誌として創刊されました。それまでは朝日、毎日、読売などの新聞社によるものが中心でした。これ以後、各出版社が競って出版するようになり、週刊誌ブームとなりました。



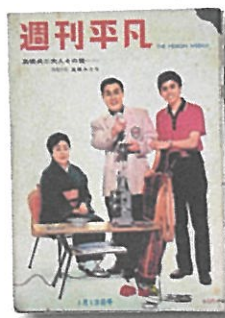
5-7 週刊新潮



5-8 週刊現代



5-9 週刊読売スポーツ



5-10 週刊平凡



5-11 週刊朝日



5-12 週刊読売



5-13 女性自身



5-14 平凡

【歌詞ブック】

若者向け芸能雑誌には、流行歌を集めた歌詞ブックが付録として付きました。



5-15 歌詞ブック(秋乃宮博物館蔵)

【レコードジャケット】



5-16 東京五輪音頭 (秋乃宮博物館蔵)

【ステレオ】



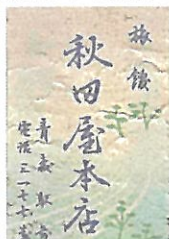
5-17 ステレオ (青森県立郷土館蔵)

6 マッチラベルで見る昭和30年代の青森

マッチが日本で初めて作られたのは明治8年のことです。

戦前のマッチラベルは、マッチ会社の商標マークが中心でした。喫茶店や料理屋などの広告マッチが登場するのはおもに戦後のことです。ここでは、昭和30年代当時の青森市内を中心に商店や飲食店のマッチラベルを紹介します。現在ではなくなってしまった懐かしい店や旅館も含まれています。

【青森市中心街西部】



秋田屋本店



越中屋



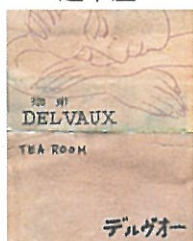
永くら



小山嘉



柿源



デルヴォー



自治会館食堂



精養軒



オノデラ



ほてい堂



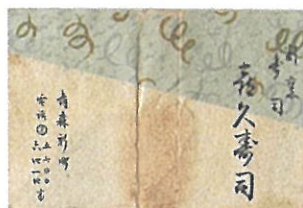
栄作堂



青森銀行



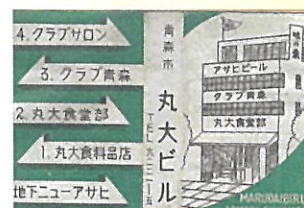
日本食堂



喜久寿司



青森サロン



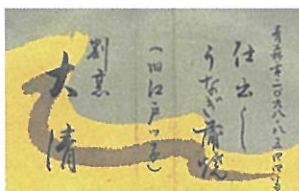
丸大ビル



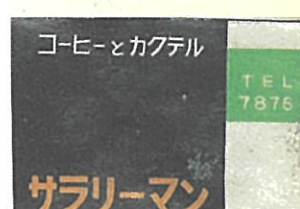
芝楽



琥珀



大清



サラリーマン



ブルーノート



むらた



純毛の今勝

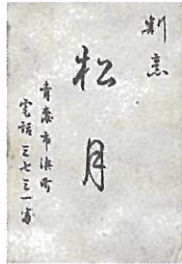


シノへ美容百貨店

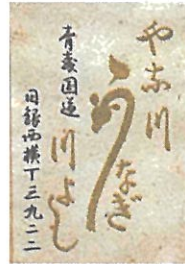
【青森市中心街東部】



寿司武



割烹松月



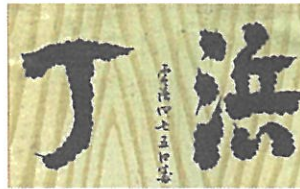
うなぎ川よし



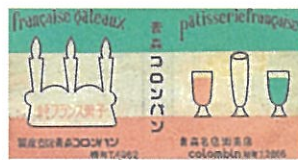
カフェミツワ



珍田タクシー



浜丁



コロンパン



玉川本舗



割烹百代



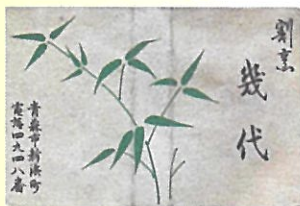
キャバレーゴールド



八百善



八甲荘



割烹幾代



セシボン



大観堂



市民会館食堂部



樋口商店



松木屋

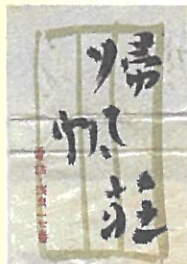


青森トヨタ自動車株式会社



教育会館

【浅虫温泉】



帰帆荘



朝日館松園



椿館



東奥館

7 青年期(昭和40~48年) - 3C時代のはじまり-



「わたしは高校三年生になりました。音楽好きの父は念願のステレオを買って、日曜日は一日中クラシック音楽に聴き入っています。でも、たまには家族でドライブに出かけることもあります。」

昭和40年以降の家電製品はそれまでの「三種の神器」からカラーテレビ・乗用車(カー)・クーラーが普及していきました。これらは英語の頭文字がすべて「C」からはじまるので「3C」と呼ばれました。マイカーブームの到来で昭和45年には4世帯に1台の割合で保有されるようになりました。また、ザ・ビートルズの来日は若者文化に大きな影響を与えました。青春歌謡、グループサウンズ、エレキ、フォークソングといった音楽活動の隆盛、ミニスカートやジーンズの流行など、海外から多くの文化を吸収しました。



「ほくは憧れの大学生生活を弘前で送っています。下宿には毎日友だちがやってきて、フォークギターに熱中しています。」

- 昭和40年
この年、家庭用電子レンジ発売
(早川電機工業/現シャープ)
- 昭和41年
6月 ザ・ビートルズ 日本武道館公演
7月 カセットテープ発売(日立マクセル)
ミニ・スカート普及
- 昭和42年
この年、ミニサイクル発売(ブリヂストンサイクル)
- 昭和43年
2月 本邦初レトルト食品「ボンカレー」発売(大塚食品工業)
- 昭和45年
5月 「象印電子ジャー」発売
- 昭和46年
5月 「カップヌードル」発売(日清食品)
ジーンズ本格化
- 昭和47年
この年、「仮面ライダー snack」
(カルビー)の仮面ライダーカード流行
- 昭和48年
1月 「ごきぶりホイホイ」発売(アース製薬)

8 なつかしい写真

本展では、会期中に観覧者の皆さんから持ち込んでいただいた昭和30年代の写真を展示しております。写真は往時を振り返る上で多くの情報を提供してくれます。ここでは、青森県が所蔵している写真の中から昭和30年代ころのものを紹介します。



8-1 青森駅前(昭和35年)



8-2 三社大祭(昭和35年)



8-3 青森ねぶたまつり(昭和37年)



8-4 青森県庁舎(昭和37年代)



8-5 黒石市街(昭和38年)



8-6 集団就職列車(昭和41年)

元号	西暦	青森県の出来事	社会の動き
昭和29年	1954	4月、初の集団就職列車(青森発上野行)運転 ※就職列車は、1975年まで存続 7月、黒石市誕生 9月、洞爺丸台風で、リンゴ大量落下 10月、五所川原市誕生 12月、合浦公園、米軍より返還 この年、郡場寛、弘前大学学長に就任 この年、寺山修司、全国の高校生に呼びかけ、俳句雑誌「牧羊神」を創刊 早稲田大学入学。「チェホフ祭」50首で「短歌研究」新人賞受賞	3月、第五福竜丸がビキニ水爆実験に被災 流行語 死の灰 ブーム 新書判 東宝の特撮映画ゴジラ プロレスラー力道山の空手チョップ 国産初の缶ジュース「明治オレンジ」発売
昭和30年	1955	1月、三本木市誕生 4月、『青森県歌集第二集』発行 7月、棟方志功、第28回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展入賞 10月、三本木平野開発の用排水事完成 10月、初代若乃花、松登と共に大関に昇進	8月、第1回原水爆禁止世界大会広島大会 11月、自由民主党結成(自由・日本民主党合同)、保守合同により55年体制成立 12月、日本の国連加盟に、ソ連拒否権行使 この年の後半から「神武景気」 この年、東芝が電気釜を発売(家庭電化時代のはじまり) 流行語 ノイローゼ 三種の神器 ブーム マンボ
昭和31年	1956	1月、横綱鏡里、3度目の優勝(連続) 6月、馬淵川改修工事完工 6月、棟方志功、第28回ヴェネツィア・ビエンナーレで国際版画大賞受賞 6月、夏場所で大関若乃花、初優勝 7月、今官一、『壁の花』で第35回直木賞受賞 10月、三本木市、「十和田市」と改称 この年、3年計画の上北機械開墾事業に着手 この年、盛秀太郎、棟方志功からこけしを激賞され、声価を得る この年、石坂洋次郎、『山と川のある町』『陽のあたる坂道』を発表	2月、『週刊新潮』創刊(定価30円)、週刊誌ブームおこる 5月、水俣病、公式確認 7月、経済企画庁、『経済白書』を発表、「もはや戦後ではない」の語流行 10月、日ソ国交回復に関する共同宣言調印 12月、国連総会、日本の国際連合加盟を可決、佐藤尚武参議院議員政府代表。 この年、「太陽族」「一億総白痴化」の語流行 流行語 太陽族 神武以来 ブーム ホッピング 電気洗濯機 永谷園のお茶づけ海苔
昭和32年	1957	1月、今東光、『お吟さま』で直木賞受賞 2月、亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶、重要文化財に指定 7月、川島雄三代表作、日活映画「幕末太陽伝」公開。東京映画に移籍 8月、是川遺跡、史跡に指定 10月、佐井中学校で、函館からの電波を受信して、視聴覚教育を実施 12月、県、初めて除雪車を購入、機械除雪を開始	1月、南極観測の「昭和基地」設置 10月、ソ連、世界初の人工衛星スプートニク1号打ち上げ成功 12月、百円硬貨発行 流行語 よろめき ストレス ブーム CMソング コカコーラ
昭和33年	1958	9月、大三沢町、「三沢市」として市制施行 10月、東北本線初の特急「はつかり」運転開始 11月、南津軽郡田舎館村垂柳遺跡発掘、200粒の焼米出土 この年、能田多代子、名著『手っきり姉さま』を著す この年、寺山修司、第一歌集『空には本』を刊行 この年、石館守三、東京大学初代薬学部長となる	11月、皇太子と正田美智子の公約発表、「ミッチーブーム」生まれる 12月、1万円札発行、東京タワー完工式 流行語 団地族 ながら族 なべ底不況 イカサ ブーム ロカビリー フラフープ 初のインスタントラーメン「チキンラーメン」発売 朝日麦酒、初の缶ビール スバル360
昭和34年	1959	3月、NHKテレビ青森放送局開局 6月、青和銀行、多数のこげ付きを出し、全国初の地銀協同融資で再建へ 9月、下北郡大湊町、田名部町合併し、市制施行、大湊田名部市となる 9月、ラジオ青森(現青森放送)、テレビ放送を開始 この年、小児麻痺ワクチンを得るために奔走していた医師岩淵謙一、過労により急逝	1月、メートル法施行 4月、皇太子と正田美智子ご結婚式 6月、小児麻痺を指定伝染病に指定。 この年の下期から翌年下期にかけ、「岩戸景気」 流行語 岩戸景気 消費革命 ブーム ミッチーブーム 日本作曲家協会主催「日本レコード大賞」制定 スカイピンポン バンドエイド
昭和35年	1960	1月、日米新安保条約・地位協定調印 3月、目屋ダム竣工 5月、チリ地震津波で八戸市の住家(218戸)・漁船(485隻)などが被害を受ける 12月、上野・青森間特急「はつかり」、ディーゼル化	3月、若乃花、史上初の横綱全勝同士の決戦で栃錦を破り、8度目の優勝 6月、初のロングサイズたばこ「ハイライト」発売 9月、NHK・日本テレビなど、カラーテレビの本放送を開始 12月、国民所得倍増計画閣議決定 この年、電気冷蔵庫普及、即席ラーメン・インスタントコーヒーなど発売 流行語 所得倍増 ブーム ダッコちゃん人形 森永製菓、国産初のインスタントコーヒー発売 クレジットカード日本初登場 ハイライト グリコワンタッチカレー
昭和36年	1961	1月、青森県庁(現庁舎)の落成式 1月、三浦哲郎、「忍ぶ川」で芥川賞受賞 5月、八戸市白銀で大火、670世帯焼失 10月、天皇・皇后、十和田湖をご遊覧、青森・大阪間に特急「白鳥」運転開始	4月、ソ連、初の有人宇宙飛行に成功。ガガーリン「地球は青かった」 6月、農業基本法公布 この年から、四日市ぜんそく患者多発 流行語 アンネの日 ブーム うたごえ喫茶 明治マーブルチョコレート キッコマン卓上醤油瓶
昭和37年	1962	2月、八戸是川遺跡出土品633点、国の重要文化財に指定 8月、木村秀政が設計に携わった戦後初の国産旅客機「YS-11」試験飛行に成功 9月、県議会、高校生急増対策として八戸北・弘前南・青森西高校などの設置を議決 10月、六戸町のフジ製糖青森工場落成式 10月、南部縦貫鉄道(七戸・千曳間)開通	8月、堀江謙一、小型ヨットで太平洋横断に成功 この年の末からオリンピック景気はじまる(～1964) 流行語 無責任時代 ブーム ツイスト リポビタンD ゼロックス914

元号	西暦	青森県の出来事	社会の動き
昭和38年	1963	4月、東北開発会社のむつ製鉄・砂鉄原料両会社発足 4月、八戸工業高等専門学校開校 5月、棟方志功、紺綬褒章受賞 9月、青森明星短期大学開学 この年、盛秀太郎、国の卓越技能者、県褒賞、県文化賞を受賞、名工と称えられる この年、淡谷のリ子、日本歌手協会理事に就任	1月、北陸地方中心に豪雪(三八豪雪) 10月、新潟水俣病発症 11月、新千円札発行(伊藤博文の肖像) 流行語 巨人・大鵬・卵焼き ブーム SFアニメ 計量米びつ「ハイザー」 ボウリングブーム 大阪駅前に初の横断歩道橋設置 ベンてるのサインペン
昭和39年	1964	2月、栃ノ海、横綱になる 3月、八戸新産業都市発足 8月、青函トンネル本州側調査抗、三廠で着工修築式 11月、青森空港開港式、翌年6月日本国内航空の寄港開始 12月、東北開発会社総裁、むつ製鉄計画を断念 この年、高橋竹山、初の津軽三味線独奏レコードを出す この年、寺山修司、放送劇「山姥」でイタリア賞グランプリ	10月、東海道新幹線開業、東京オリンピック開催 この年の末から40年不況はじまる(～1965) 流行語 おれについてこい ウルトラC ブーム 切手ブーム ワンカップ大関 ティッシュペーパー
昭和40年	1965	6月、青森空港営業開始 8月、津軽岩木スカイライン開通(本県初の有料道路) この年、澤田教一、「安全への逃避」で第9回ハーグ世界報道写真展グランプリ受賞 この年、田中稔、日本農学会賞受賞 この年、県の木にヒバが選定される	10月、朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞 流行語 期待される人間像 ブーム エレキギター オバケのQ太郎 オロナミンC
昭和41年	1966	1月、三沢市で大火、399戸焼失 4月、北里大学畜産学部、十和田市に開校 12月、県、出稼実態調査の結果、年間5万4千人の就労とわかる この年、澤田教一、ピューリッツァー賞受賞 この年、石坂洋次郎、菊池寛賞受賞	3月、日本の人口1億人突破 6月、国民祝日法改正公布(敬老、体育の日制定)、 ザ・ビートルズ日本武道館で公演 流行語 交通戦争 3C ブーム カラーテレビ カー(サニー、カローラ) クーラー
昭和42年	1967	3月、フジ製糖工場閉鎖 4月、三菱製紙八戸工場、八戸新産業誘致第1号企業として落成 8月、科学技術庁、大湊港を原子力船母港に内定 この年、寺山修司、演劇実験室「天井桟敷」設立	8月、公害対策基本法公布施行 この年、新潟水俣病・四日市ぜんそく 提訴 流行語 フーテン族 ブーム ミニスカート リカちゃん人形 ケロヨン、ブスカ
昭和43年	1968	4月、青森大学開学 5月、十勝沖地震で県南地方の被害甚大 7月、青森市の東北本線南方移転にともない東青森駅新設 7月、下北半島、国立公園に指定 10月、東北本線の複線電化完成	6月、東大で医学部学生ら、安田講堂占拠 10月、川端康成、ノーベル文学賞決定 この年、いざなぎ景気はじまる(3C時代)、イタイイタイ病提訴 流行語 アングラ 昭和元禄 いざなぎ景気 ブーム シンナー遊び 雪印マーガリン 初のレトルト食品「ボンカレー」発売
昭和44年	1969	5月、リンゴの山川市場(投棄)出現 5月、東北女子大学開学 8月、三沢高等学校野球部、甲子園大会で準優勝 12月、第32回衆議院議員選挙で、津川武一が東北初の共産党代議士となる 12月、青森テレビ、本放送開始 この年、棟方志功、青森市名誉市民に推挙	5月、東名高速道路全通 この年、熊本水俣病提訴 流行語 モーレツ エコノミックアニマル ブーム ボウリング プッシュホン 「男はつらいよ」
昭和45年	1970	2月、米の生産調整(減反)決定 5月、三浦雄一郎、エベレストからのスキー滑降に成功 7月、原子力船むつ、大湊港に入港 10月、澤田教一、カンボジアの国道2号線で狙撃され、死去 11月、棟方志功、県人初の文化勲章を受章 11月、下北半島の猿と生息北限地、天然記念物に指定	3月、赤軍派学生、日航よど号をハイジャック 3月、日本万国博覧会開催 歩行者天国 7月、東京杉並で全国初の光化学スモッグ発生 8月、銀座・新宿・池袋・浅草で「歩行者天国」実施 ブーム ジーンズ 歩行者天国 脱サラ 象印電子ジャー
昭和46年	1971	3月、むつ小川原開発公社設立 4月、八戸短期大学開学 5月、弘前学院大学開学 10月、奥羽本線青森・秋田間、電化開通式 11月、青函トンネル本工事起工	6月、沖縄返還協定調印 8月、ドル・ショック 流行語 ディスカバージャパン 日本株式会社 ブーム Tシャツ アメリカンラッカー 日清カップヌードル
昭和47年	1972	6月、県、むつ小川原開発第一次基本計画を決定 6月、八戸工業大学開学、県初の4年制工業大学 12月、五能線列車、高波のため海に転落	2月、第11回冬季五輪札幌大会 3月、高松塚古墳で極彩色の壁画発見 5月、沖縄の施政権返還、沖縄県復活 9月、日中共同声明調印、日中国交回復 11月、中国からのパンダ、上野動物園で初公開 流行語 総括する ナウ 恥ずかしながら ブーム 土地ブーム 太陽にほえろ エアポット 仮面ライダーカード 初心者マーク、Vサイン
昭和48年	1973	7月、長部日出雄、「津軽世去れ節」などで直木賞受賞 8月、青森市に集中豪雨 9月、上北鉱山閉山 9月、下北・上北地方に集中豪雨 9月、青森県立郷土館が開館 10月、弘西林道(弘前・岩崎間)完工 12月、六ヶ所村村長選挙、むつ小川原開発賛成の前村議会議長が当選 この年の秋、第一次オイル・ショックおこる	1月、老人医療無料化実施(70才以上) 10月、トイレトペーパーのパンニック起こる。 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞決定 流行語 そんなに急いでどこへ行く ちょっとだけヨ ブーム オセロゲーム 液晶デジタル腕時計 くれ竹筆ペン ごきぶりホイホイ

(青字は社会・文化分野、黒字は政治・経済分野)

参考文献

小岩信竹 四宮俊之他『青森県の百年』(1987年 山川出版社)

伊藤正直 新田太郎『ビジュアルNIPPON 昭和の時代』(2005年 小学館)

『昭和二万日の全記録』第8～15巻(1989～1990年 講談社)

『青森放送50年史』(2004年 青森放送株式会社)

『調査報告書 家庭用電気器具について』(1962年 東北電力株式会社)

武田三作編『新聞記事に見る青森県日記百年史』(1978年 東奥日報社)

日専連弘前創立50周年史編集委員会『真商道 日専連弘前創立50周年史』(2003年 日専連弘前)

全日本写真連盟『幕末・明治・大正・昭和 カメラのあゆみ 全日本写真連盟創立50周年記念』
(1976年 朝日新聞社)

協力者一覧(五十音順、敬称略)

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

青森県近代文学館

青森県立図書館

青森市広報課

油谷満夫(秋乃宮博物館)

植田倫安(ハンサム食堂)

上村四郎

大柳繁造

奥寺とみ子

嘉瀬慎一

佐々木朋子

四宮俊之

白川幸夫

竹内武道(オールドカー・オートバイコレクション展示館)

新渡戸明

八戸市南郷歴史民俗資料館

増田公寧

松山秀明

村上信吾(黒石ゆかりの作曲家私設資料館)

安田勝寿

渡辺 昇(街の駅よごしやま古道具屋)

わが家にテレビがやってきた

昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる

編集・発行
総合博物館
青森県立郷土館

〒030-0802 青森市本町2-8-14 TEL017-777-1585

キャラクター、オリジナル付録デザイン
山平恵理子

発行日
2006年9月

印刷
青森オフセット印刷株式会社
〒030-0802 青森市本町2-11-16 TEL017-775-1431



総合博物館 青森県立郷土館 東奥日報社 青森放送

